令和2年4月30日 大阪府環境農林水産部農政室推進課 病害虫防除グループ

引き続きたまねぎのべと病に注意を!

1 発生状況

本年は2月上旬に複数のほ場で越年り病株(図1)の発生があり、防除情報を令和2年2月13日に発表。4月上旬の発生予察調査においても被害株が多かったため、再度、令和2年4月10日に、防除情報を発出した。

その後も感染拡大が多くの地域で確認されている。





2 生態と発生条件

図1 越年り病株

図2 2次感染株

- (1)作物残さなどから、11~12月に苗床や定植後のほ場で感染する。
- (2) 感染した株は越年し、2~3月に病徴を示し、葉は萎縮、黄化し、つやがなく、ねじ曲がり、硬くなる(図1)。 越年り病株は1,000株に数株の発生でも2次感染株の多発につながる。
- (3)越年り病株が感染源となり、3~5月に温暖で降水量が多いと2次感染株(通常のべと病株)の発生が増え、急速にまん延する(図2)。
- (4) 気温6~19℃で胞子を形成する。最適気温は13~15℃。
- (5) 気温15℃前後、湿度90%以上で胞子が発芽する。
- (6) 胞子は通常100m、強風時はさらに広範囲に飛散する。

3 防除

- (1) 発生を認めたら発病株は抜き取り、集めてほ場外に持ち出し、処分する。
- (2) 発病株を抜き取った後、治療剤を散布する(収穫時期、使用回数注意)。

表 たまねぎ べと病の防除薬剤(例) 散布にあたっては農薬のラベルを確認すること。

薬 剤 名	系統(FRAC)	種類	希釈倍数	使用時期	本剤の使用回数
ジマンダイセン水和剤:	ジチオカーバメート(M3)	予防	400~	収穫3日前まで	5回以内
ペンコゼブ水和剤			600 倍		
ベトファイター顆粒水和剤	その他(27)	治療	2,000倍	収穫7日前まで	3回以内
	CAA(40)	治療			
リドミルゴールド MZ	ジチオカーバメート(M3)	予防	500~	収穫7日前まで	3回以内
	フェニルアミト゛(4)	治療	1,000倍		
ザンプロ DM フロアブル	CAA(40)	治療	1,500~	収穫7日前まで	3回以内
	QoSI(45)	予防	2,000倍		
ホライズンドライフロアブル	その他(27) QoI(11)	治療	2,500倍	収穫3日前まで	3回以内
プロポーズ顆粒水和剤	クロロニトリル(M5)	予防	1,000 倍	収穫7日前まで	3回以内
	CAA(40)	治療			
メジャーフロアブル	QoI(11)	治療	2,000倍	収穫前日まで	3回以内

注)ジマンダイセン水和剤及びペンコゼブ水和剤、リドミルゴールド MZ などに含まれる成分<u>マンゼブの</u>総使用回数は、5回以内。